

コラム2 道端の中世石仏

旧新潟市域では五体の中世石仏が市の文化財に指定されている。

一体は、新潟本町二丁目の新潟川西堤防わきのお堂に安置され、「キンカ地藏」と呼ばれている。いつごろから祭られているのか分からないが、阿弥陀如来を彫ったもので、耳の不自由な人にご利益りやくがあるといわれている。もう一体は、大鹿おおしかの諏訪神社前すわにある石仏で、「地藏様石」と呼ばれている。これも本来は阿弥陀如来を彫ったもので、安置された由来は分からない。年配者の話によれば、子どもころの力比で、よくこの石仏を使って遊んだという。ほかの三体は大安寺だいあんじの盛岩寺境内せいがんじにある。三体とも花崗岩かこうがん（御影石みかげいし）に彫られた阿弥陀如来だが、由来は分からない。言い伝えでは、新郷屋しんごやの人が川から拾ってきて寺に祭ったのだという。



図48 大鹿諏訪神社の石仏  
高さ33センチメートル

このような、自然の形の石に、座像をほんやりと彫った中世石仏は、阿賀野市に多くあり、新潟市域では北区や亀田郷にも点々と見られる。すべてが中世から同じ場所に安置されていたわけではないが、人々の信仰の広がりひろがりを暗示している。